平野区における新たな活動の創出に向けた協議体の役割と展開

~調査から協働、実践へ 生活支援体制整備事業を基盤として~











本報告の背景・概要

大阪市平野区社会福祉協議会(以下、平野区社協)は平成28年9月に大阪市より 「生活支援体制整備事業」を受託し推進している。

平野区は人口約20万人、日常生活圏域(地域包括支援センターと同圏域)が5つという大阪市内で最大の人口と地域数(23地域)を有する。同区の規模・特性をふまえ、調査の実施を経て、第1層協議体を「実働協議体」とするべく設置してきた2つの「プロジェクトチーム」をはじめ、のちに設置する第2層協議体を通じて参画者が主体的に課題を検討することにより、現在に至るまで約6年に渡り様々な活動の創出等を展開してきたプロセスについて報告する。

大阪市の生活支援体制整備事業について

平成27年 8月~ 3区でモデル実施(港区・鶴見区・住之江区)

平成28年 9月~ 5区に追加配置(此花区・東成区・生野区・東住吉区・平野区)

平成29年10月~ 16区を追加して市全域で展開

令和 3年 4月~ 第2層SC 24区一斉配置(日常生活圏域数)

以下、生活支援コーディネーターをSCと表記する

大阪市の生活支援体制整備事業について

■ SC配置数

第1層SC 24人(各区1人) 第2層SC 66人(各区1~5人)

・各区社協が、大阪市から「生活支援体制整備事業」を受託し、第1層・第2層SCを配置 ・各区社協ではSCとは別に、地域支援担当、見守り支援ネットワーカー(CSW)等の配置あり





令和元年10月(第1層SCのみ配置時点)に 事例集発行

■ 令和3年度 生活支援体制整備事業実績(市内24区合計)

地域資源・サービス等の新規開発 110 件・拡充 72 件 既存資源の維持継続支援 199 件

第1層協議体開催 57 回 · ワーキング開催 206 回 第2層協議体開催 92 回 · ワーキング開催 184 回

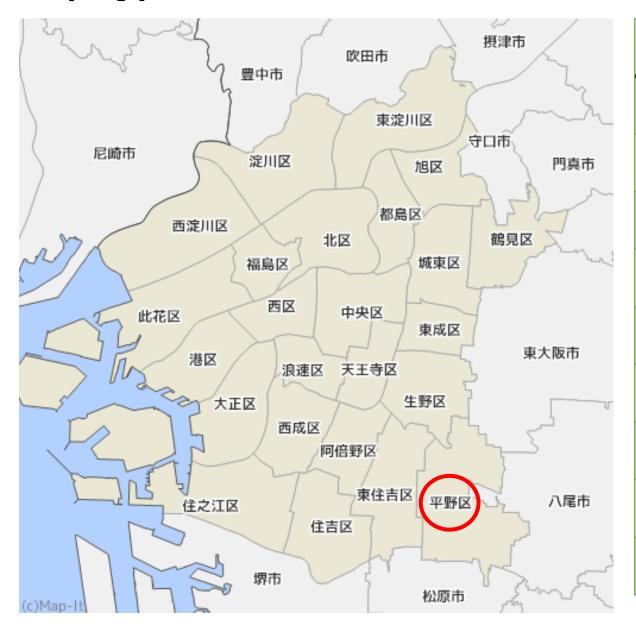
講座・ワークショップ等の開催 152 件 · 合計参加者数 3,590 人





第1層・第2層SC合同の研修会 (令和3年12月)

平野区について



名称	数値	市内24区中
面積	15.2km²	3位
人口	192,152人	1位
世帯数	92,747世帯	3位
公営住宅	21,926戸	1位
高齢化率	28.7%	6位
地区社協	23地域	1位
小学校区	22校	1位
中学校区	11校	1位
地域包括	5ヶ所	1位

平野区の生活支援体制整備事業の展開プロセスについて

初動期

平成28年~29年

SC配置~第1層協議体・社会調査・協議体プロジェクトチーム発足



平成30年~令和元年

プロジェクトチームから活動創出



多十四十四。第2回

コロナ禍・第2層SC配置・第2層協議体発足

④ 現在 令和4年~

第2層協議体から活動創出へ/小地域での展開について

①初動期

SC配置~第1層協議体・社会調査・協議体プロジェクトチーム発足まで

Ⅰ 社会調査(アンケート調査)

-目的-

区民の生活状況を把握するとともに、住民主体による地域福祉活動推進の方向性を検討するため

-対象-

区内世帯数5%に相当する4,448世帯

- -調査結果から-
- ・地域に長く住み続けたいといった愛着・帰属意識の高さ
- ・近所づきあいになじめず頼みごとを相談できない
- ▶「在宅生活」「居場所づくり活動」への期待が高い。



平成30年1月 第1層協議体のワーキングとし てプロジェクトチームが発足!

> 居場所づくり プロジェクト チーム会議

有償活動 プロジェクト チーム会議

平野区の生活支援体制整備事業 協議体について

名 称	第1層協議体 平野区における生活支援サービス等の 検討のための実務者レベルの協議体	居場所づくり プロジェクトチーム (第1層協議体 ワーキング)	 有償活動プロジェクトチーム (第1層協議体 ワーキング)	第2層協議体 (圏域別意見交換会)
発足/ 開始時期	発足:平成29年3月 第1回:平成29年11月	平成30年1月	平成30年1月	令和4年1月
開催頻度	年2~3回	毎月1回	毎月1回	3ヵ月に1回
参画メンバー	・区内地域包括支援センター ・区役所 ・介護保険事業者連絡会 ・株式会社ローソン ・まちづくりセンター ・認知症地域支援推進員 ・老人福祉センター ・在宅医療・介護連携相談支援室 ●障がい者基幹相談支援をフター ●住宅管理センター ●地区社協会長 ●社会福祉施設 ・地域福祉活動コーディネーター ・区社協(地域支援担当・見守り相談室・ボランティア・市民活動センター)	・区内地域包括支援センター ・まちづくりセンター ・認知症地域支援推進員 ・老人福祉センター ・区社協(地域支援担当・見守り相 談室・ボランティア・市民活動センター)	・区内地域包括支援センター ・平野区役所 ・まちづくりセンター ●社会福祉施設 ●認知症地域支援推進員 ・地域福祉活動コーディネーター ・区社協(地域支援担当・見守り相 談室)	・区内地域包括支援センター ・地区社協会長 ・地域役員(各地域によって 女性部長や民生委員などが 参画) ・地域福祉活動コーディネー ター ・区社協(地域支援担当・見守 り相談室)
		」 「●」は③転換期(令和2~3年)以降に参画	\ <u>-</u>	

②発展期(平成30年~令和元年)

「居場所づくりプロジェクトチーム会議」(平成30年1月)

課題・現状の整理

集いの場の把握

- ・参加できる居場所を知りたい(専門職・地域住民より)
- ・参画メンバーそれぞれが把握している情報の共有が必要

情報の見える化

・把握した情報について周知方法・一元化をどうするか

居場所の創出

- ・ご近所のつながりをつくってほしいけど場がない
- ・地域のサロン活動になかなか男性が参加してもらえない

担い手の養成

- ・担い手の固定化から新たな担い手の発掘の必要性
- ・担い手同士の交流の場を創りたい

取り組み方針

集いの場の把握

・毎月の定例会で情報共有

情報の見える化(他市・他区事例を集める)

- ・「集いの場マップ」の発行
- ・社会資源システムの活用を検討

居場所の創出

- ・地域活動の新たな活動創出を支援
- ・男性の居場所づくりの創出を検討

担い手の養成

- ・講座の開催
- ・ボランティア同士の交流会を企画

②発展期(平成30年~令和元年)

「居場所づくりプロジェクトチーム会議」

取り組み例 男性の居場所グループ「The男組」について

- 講座をきっかけにグループ化!
- ・「男の手打ちうどん講座」受講生でグループ化
- ・毎月定例会を実施中
- ・理念などプロジェクトチームも協働し作成

主な活動

- ・イベント出店やお手伝い
- ・移動販売でのお手伝い (販売や荷物運びのお手伝いを実施)
- ・障がい作業所との交流(畑づくりも実施)
- ・音楽ボランティアグループを発足 (施設訪問などを目指し練習中!)
- ・全国からの問い合わせがあり、講座や講演 にオンライン等で出演









The男組の理念

「The男組は、参加者ひとりひ とりの夢を叶え、出来ることを出 来る範囲で楽しみながら地域社会 に貢献します。」



「からあげ&ポテト」を販売



全国からの講演依頼に オンラインで出演

②発展期(平成30年~令和元年)

「有償活動プロジェクトチーム会議」(平成30年1月)

課題・現状の整理

アンケート調査から

・「在宅生活」「居場所づくり活動」への期待が高い

専門職の声

- ・無償による助け合い活動の担い手の確保の困難性
- ・インフォーマル活動への期待

地域からの声(地域福祉活動コーディネーター※へのヒアリング)

- ・頼み事をする側から無料ではかえって気をつかわれる
- ・会話がなく寂しさを感じている人がいる

先行事例から学ぶ(大阪市東成区・八尾市)

- ・活動や依頼内容の範囲(区内全域、中学校区)
- ・会員の枠組みや帳簿、経費について等ヒアリング

取り組み方針

- ①全区ではなくモデル地域を指定
- ②活動者は地域外にも呼びかけ
- ③近所づきあいで頼める範囲を 依頼として受付
- ④地域福祉活動コーディネーター と連携
- ⑤マッチング役への支援体制の 確立

※地域福祉活動コーディネーターとは 平野区の独自事業として相談機関等と住民の困りごとをつなぐことなどを目的に各地域に1名配置している

②発展期(平成30年~令和元年)「有償活動プロジェクトチーム会議」

「瓜破北たすけあい活動の会」について

ちょっとした困りごとを住民同士でたすけあう有償によるボランティア 活動として発足。高齢化、つながりの希薄化などから生じる地域課題へ の取り組みを、5年後、10年後をみすえ、元気な人がいる今、「どないか せなあかん!」という会長の思いをうけて、まずは身近な困りごとを把握 し、有償によるボランティア活動で助け合い、「お互いが顔なじみの関係」 をつくることを目的とした活動

会員区分	内 容	人 数 (令和4年12月時点)
利用会員	依頼を希望する方 ※瓜破北地域住民のみ	95名
活動会員	活動を希望する方 地域内外どなたでも	25名
両方会員	利用と活動と両方希望する方	3名
応援会員	活動を応援していただける方	4名
会費	入会費1,000円	動件数:156件(累計)



③転換期(令和2年~3年) コロナ禍・第2層SC配置・第2層協議体発足 「居場所づくりプロジェクトチーム会議」

集いの場の把握

・コロナ禍の情報を毎月共有

情報のみえる化

- ・圏域ごとの集いの場マップの作成(地域住民・専門職への周知を目的)
- ・生活支援コーディネーターだより「ささえあい通信」の発行

居場所の創出

- ・男性の居場所づくりの展開に向けた協議
- ・「The男組」自主運営化に向けた支援

担い手の養成

- ・企業の社会貢献活動(コミュニティスペースの活用等)との連携
- ・ふれあい喫茶ボランティアの交流会の企画

ささえあい通信





③転換期(令和2年~3年) コロナ禍・第2層SC配置・第2層協議体発足 「有償活動プロジェクトチーム会議」

「瓜破北たすけあい活動の会」継続支援

- ・「瓜破北について考える会」のなかで活動の共有
- ・活動者同士の交流会の実施
- ・買い物支援活動の企画「ライフで買い物ツアー」

「瓜破北版」地域包括ケアシステムの構築に向けて

- ・地域のあらゆる課題を共有する場へ
- ・「瓜破北地域に長く暮らしていくために」をテーマに「暮らし方講座」の開催
- ・子育て世帯の居場所の創出(多世代交流を目的)
- ┃有償による助け合い活動の展開へ
 - ・区内での助け合い活動の展開に向けた検討へ



オンラインを活用した会議の実施



「ライフで買い物ツアー」

③転換期(令和2年~3年) コロナ禍・第2層SC配置・第2層協議体発足 「第2層SCの配置・第2層協議体の発足」

■第2層SCの配置 令和3年度より第2層生活支援コーディネーターが大阪市内一斉配置(各区に日常生活圏域数配置)

▮第1層協議体

- ・第2層SC配置に向けた意見交換を実施
- ・コロナ禍での本事業の推進について意見交換
- ・住宅管理センター、障がい者基幹相談支援 センターに参画を呼びかけ
- →公営住宅の空き部屋の活用や障がい者の 居場所づくりの検討のきっかけに

第2層協議体

- ・圏域ごとに令和4年1月開始
- ・地区社会福祉協議会会長、地域福祉活動コーディ ネーターに参画を呼びかけ
- ・圏域内の話し合う場として地域同士横のつながりをつくることを目的に開催
- ・「圏域マップ(集いの場マップ)」をもとに地域活動 の意見交換を実施

平野区の生活支援体制整備事業 協議体について

名 称	第1層協議体 平野区における生活支援サービス等の 検討のための実務者レベルの協議体	居場所づくり プロジェクトチーム (第1層協議体 ワーキング)	有償活動プロジェクトチーム (第1層協議体 ワーキング)	第2層協議体 (圏域別意見交換会)
発足 <i>/</i> 開始時期	発足:平成29年3月 第1回:平成29年11月	平成30年1月	平成30年1月	令和4年1月
開催頻度	年2~3回	毎月1回	毎月1回	3ヵ月に1回
参画 メンバー	・区内地域包括支援センター ・区役所 ・介護保険事業者連絡会 ・株式会社ローソン ・まちづくりセンター ・認知症地域支援推進員 ・老人福祉センター ・在宅医療・介護連携相談支援室 ●障がい者基幹相談支援センター ●住宅管理センター ●地区社協会長 ●社会福祉施設 ・地域福祉活動コーディネーター ・区社協(地域支援担当・見守り相談室・ボランティア・市民活動センター)	・区内地域包括支援センター ・まちづくりセンター ・認知症地域支援推進員 ・老人福祉センター ・区社協(地域支援担当・見守り相 談室・ボランティア・市民活動センター)	・地域福祉活動コーディネーター	・区内地域包括支援センター ・地区社協会長 ・地域役員(各地域によって 女性部長や民生委員などが 参画) ・地域福祉活動コーディネー ター ・区社協(地域支援担当・見守 り相談室)

「●」は③転換期(令和2~3年)以降に参画

④現在(令和4年~) 第2層協議体から小地域での活動創出へ

■第1層協議体

- ・社会福祉施設への参画の呼びかけ
- ・有償活動プロジェクトチームの再開など プロジェクトチームの方向性を検討

▋ 有償活動プロジェクトチーム会議

- ・有償による助け合い活動の展開にむけ再開
- ・生活支援ニーズ調査を検討

■居場所づくりプロジェクトチーム会議

- ・男性の居場所づくりの展開へ(講座の開催)
- ・ふれあい喫茶ボランティア交流会の実施
- ・異業種交流会の企画

■第2層協議体

- ・協議体を経て小地域での新たな活動創出へ
- →「自分の地域でできること」を考えるきっかけに

▎️小地域での話し合いの場の展開へ

- ・「小地域福祉活動計画策定に向けた住民座談会」 の開催の検討
- ・「瓜破北地域について考える会」の継続



まとめと今後の展望

第1層協議体

- ・定期的な情報共有・連携強化の場
- ・地域課題を共有し、解決に向けた協議を実施する場

有償活動プロジェクトチーム会議 区内での助け合い活動の仕組みを創出していく ための検討の場 **居場所づくりプロジェクトチーム会議** 区内での「居場所づくり」を展開していくための 検討の場



- ・地域同士のつながりづくりから新たな活動の創出へ
- ・専門職と地域の連携の場に

平野圏域 (4地域) 喜連圏域 (4地域) 長吉圏域 (7地域) 瓜破圏域 (4地域) 加美圏域 (4地域)

小地域ごとの話し合いの場(23地域)

各地域での展開をめざす!

今後の取り組み

- ▶生活支援ニーズ等の再調査を実施第1層協議体の方向性を検討/圏域での共通課題を整理していく
- ▶ 地域の課題解決に向けた住民同士の話し合いの場の創出へ 小地域での課題が、日常生活圏域レベルの第2層協議体、区レベルの第1層協議体へと吸い上げられ、区全体での検討へとつなげていく
- ▶ 第1層協議体のあり方の検討 第1層協議体に行政(市や区)への問題提起の機能・役割をどう持たせるか
- ▶ 小地域ごとの話し合いの場の創出に向けて区社協の職員体制/積極的な地域づくりへの参画の機運を生み出す工夫



ご清聴、ありがとうございました

ホームページやFacebookもよろしければご覧ください! ささえあい通信のバックナンバーも掲載しています!





平野区社会福祉協議会 マスコットキャラクター 「にこりん」



